

成果公刊について

峰岸 真琴*

特定領域研究 (A) 環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究

1999年10月9-10日第一回拡大総括班会議 (於 芝蘭会館)

1 調査データ・成果の整理・保存と公開の考え方

危機に瀕した言語の緊急調査という本科研の性格上、調査結果を速やかに報告書として公開し、世界的に成果を共有することが望ましいばかりでなく、科研参加に当たっての義務である。

以下のようなメディア別の資料整理、成果の公開の指針を念頭に置くことで、成果の共有・公開に当たっての作業の効率化が期待される。

2 文字メディア

2.1 文書の作成・公開について

報告書 体裁を総括班で用意して、同じようなものに揃える。

文書作成 エディタ、Word、一太郎などで行う。特殊文字言語の場合は、Pascal Write for Mac など、両プラットフォームに共通でないワープロでもよい。

版下作成 上記ワープロソフトで行う。あるいは版下作成専用の Adobe PageMaker for W/M、TeX で行う。

フォント 音声記号などのフォントを、なるべく Windows, Mac 共通のものを使う。例: SIL Doulos (Times 風) US100 ドル。 <http://www.sil.org/computing/fonts/Encore2.html/>

TeX を用いる場合、TIPA (福井 玲 (fkr) 氏作成によるもの)。

PDF 化 Adobe Acrobat for W/M (現在 Version 4、実売 30000 円程度) というソフトを購入、インストールし、プリンタとして選ぶと、PDF (Portable Document Format) が作成され、プリンタでの印刷物の版組をそのまま保った形で、ネットワーク上で公開できる。

2.2 資料のデータベース化・公開について

現地調査の際に調べていただきたい項目 (250 語程度) を含む調査票を、日本語・英語でデータベース化したものを総括班で準備する。各自の調査は独自の項目について行うにせよ、こちらで準備したものを最低限含んでいるかどうか、ご確認願いたい。

調査票は、FileMaker Pro for W/M (ファイルメーカー社、現在 Version 4)、Excel、CSV (Comma Separated Value) テキスト形式などで用意する予定である。特に FileMaker で準備していただければ、ネットワークによる公開が容易になるものと期待される。

*東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, mmine@aa.tufs.ac.jp

3 音声メディア

録音 DAT が高品質で望ましいが、精密機械のため、2台持参した方が安全である。録音はモノラルで行う。マイクはモノラル、単一指向性の50000円程度のもの。MDは簡易録音にはよいが、音声圧縮により、波形が破壊されるので、不可。寒冷地、砂漠など、録音環境が劣悪な場合、むしろ普通のオーディオカセットテープで、モノラル録音する方がよい。ビデオカメラの音声は paralinguistic な情報を含むため、書取などの記録に便利だが、補正がかかっているため、音響分析には不向き。長時間録画が可能なものは、簡易録音に使える。

保存 DAT、従来のアナログテープを、外注でオーディオCDに焼いてもらい保管する。

4 画像メディア

4.1 写真、画像の保存・公開について

カメラ カメラは光学式の35mm、あるいはAPSフィルムの方がよい。一眼レフがきれい。フィルムはスライドよりネガのほうが色の表現がよい。デジタルカメラは(現状では)臨時のものとして考えたい。最近のデジタルビデオは静止画像撮影ができ、デジタルカメラの代わりにするものが多い。

光学式フィルムの保存 写真は現像時に、PhotoCD化を依頼する。現像済みのフィルムもPhotoCDにすることができる。100コマ(フィルム3本前後)で16000円から20000円程度。2枚依頼して、一枚は個人用に、一枚は民博、AA研などでライブラリー化し、保管、公開することも考えられる。ただし、データベース化は後で考えたい。

調査ノート ノートそのもののコピーをPDF化しておくことも、保存上重要である。

4.2 映像資料の保存・公開について

ビデオ 調査言語の話し手の環境を記録するため、デジタルビデオを用いる。Sony DCR-PC100(標準価格235,000円)、アクセサリキットなどを含めて、約30万円

旧メディア 8mm、Hi8などで撮影したものは、コンバータでデジタル化しDVテープで保存しておく。

編集・公開 Sony Vaio PCV-R71(ディスプレイ含まず、デスクトップPC本体とソフトで50万円弱)で、アナログビデオのデジタルコンバート、デジタルビデオの編集、VideoCD化などが可能だが、今後1,2年でこの分野は急激な変化が見込まれるので、急ぐ必要はない。映像データの保管には、DVD-RAMなど数ギガバイトの大容量メディアが将来的には有望である。

5 終わりに

技術的なものは陳腐化が著しい。調査による資料収集という、情報のもっとも川上、源流にあたる部分の質を高品質に保つことに重点を置き、マルチメディアデータの編集加工、公開は、なるべく後半の年度に行うことで、経費と手間が節約できると思われる。

また、AVメディアのデジタル化により、機種との相性が問題になっている。A社のMDで録音したものが、B社のMDで再生できない問題が実際に起こっている。アナログの場合、多少の音質、画質の劣化があるにせよ、こういう問題は少なかったが、デジタルの場合、全く見えない、聞こえない、ということが起こる。

録音、録画テープなどの媒体も含め、できるだけ、Sony Panasonicなどに機種を揃えた方が安全である。(デジタルカメラの場合はJPEGで保管できるものなら大丈夫。)